

板橋区では、生涯にわたって学び続ける力を高めるため、義務教育9年間で子どもたちに、『読み解く力』を育成し、**学力向上**を図ります！

生涯にわたって
学び続ける力の向上

自己学習力・
テキスト等から自分で学ぶ
自己決定力
自分で判断し、決定する

学力の定着・向上

読み解く力の育成



ポイント

子どもたちが社会で活躍する2030年頃には、「超スマート社会」(society5.0)が到来すると言われています。

AIなどの進化により大きく社会が変化する中において、生き抜くために必要な「生涯にわたって学び続ける力」を子どもたちに育む必要があります。

いかにAIが進化しても、人間の優位性は、意味を理解して、読み、書き、問題解決できることだと言われています。

このような力を付けるためには、子どもたちが主体的に学ぶ中で、テキスト等を正しく読み、理解し、表現していくことが大切です。

また、板橋区の子どもたちの課題として挙げられることは、「無解答率の高さ」と「書かれてある事柄を正しく読み取り、理解し、表現することができない児童・生徒の割合が大きい」ことです。

このようなことから、「読み解く力」を育成し、学力の定着・向上を図ることにしました。

どうして
「読み解く力」
なのかな？



「読み解く力」はI.T.O?

「読み解く力」の育成が意図しているところは「I.T.O」INPUT【認識】、THINK【思考】、OUTPUT【表現】すべてに関わる力であり、これからの社会を生き抜くための力の基礎となる力です。

認識【INPUT】 教科書等の文章や図表等から読み取ったことを

思考【THINK】 基にして、分かったこと、考えたことを

表現【OUTPUT】 相手に伝える力

どうして「読み解く力」なのに、表現することも含んでいるのかな？



普段の生活の中で、「分かったこと」や「考えたこと」があると、誰かに伝えたくなくなったり、聞いてもらいたくなくなったりしませんか？

わたしたちは普段の生活の中で、年齢に関係なく、様々な場面で、自分の考えを伝えたり、図や言葉などを使って説明したりしています。伝えることができないと、どの職業に就いても困ってしまいます。ですから、表現(OUTPUT)する力は、大変重要な力と言えます。

自分で説明したり、教えたりするとさらに理解が深まります！



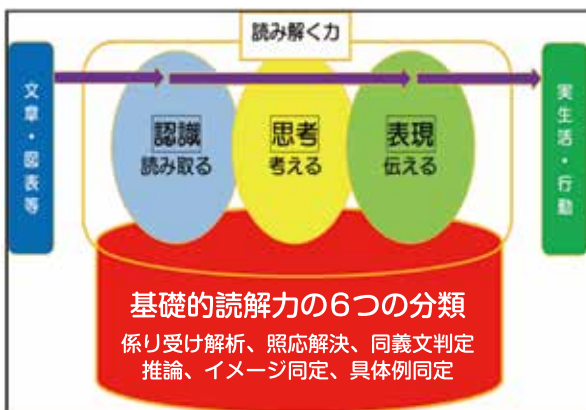
しかしながら、板橋区の子どもたちは、学力調査の結果などから、**文を正確に読み取り、適切に文章を書くことや条件に合わせて80字～120字程度で書いて説明することに課題があることが分かりました。**

このようなことから、板橋区では、表現(OUTPUT)することを重視しています。

「読み解く力」と基礎的読解力

「読み解く力」が「基礎的読解力(6つの分類)」ではありません。

基礎的読解力は、「読み解く力」を支える基礎的な技(スキル)です。あくまでも、「読み解く力」の育成を図るために授業革新の視点として取り入れていきましょう。



基礎的読解力とは、「文章や図表等から情報を正確に読み取るための基礎的な読む力」です。必要な情報をテキスト等から読み取るためには、基礎的な読む力を付けておく必要があります。

例えば、省略されている言葉等が何なのか分からなければ書かれている内容を正しく理解できませんね。

教科の指導の中で、基礎的な読む力を付けながら、「読み解く力」の育成を図っていきましょう。



「読み解く力」の育成に向けた授業革新

では、どのような授業をすればいいのでしょうか？



6 具体例同定

新しく学んだ言葉を正しく使って文章を書かせる。

定義に即して具体例を説明させる。

偶数は、2で割り切れる数をいいます。だから、0は、2で割ってもあまりがないので偶数です。



5 イメージ同定

図や表等の非言語情報を文で説明させたり表現させたりする。

文や文章に書いてある内容を図や表等で表すようにする。



1 係り受け解析

主語と述語、修飾語と被修飾語を線でつなぐ。

学校の花壇に美しい花が咲いた。



どの授業でも表現 (OUTPUT) を重視して「書く」「話す」機会を設けましょう！
自分の考えや要点を80字程度等で、発達段階に応じたまとまりのある文章で表現する機会を設けましょう。



2 照応解決

指示語が何を指しているのかを確認する。主語や目的語が省略されている文章で、意図的に主語や目的語を確認する。

「このような工夫をすることで」とありますが、このような工夫とは、どのような工夫ですか？



印刷工場で働く石塚さんの話を読みましょう。工場の中は、仕事の順番に合わせて、作業する場所が決まっています。工場の中はいつも整理整頓をされていて、何がどこにあるか分かるようにしています。このような工夫をすることで、正確に速く作業できるようにしています。

教材研究をする際の視点として、基礎的読解力(6つの分類)において、児童・生徒がどこでつまづくのかを考え、授業に取り入れてみましょう！

4 推論

既習事項を根拠として、新しい知識を獲得させる。「～だから、～です。」と考えさせる場面を作る。

三角形の3つの角の和は180度。四角形に対角線を引くと、三角形が2つになる。だから、四角形の4つの角の和は、 180×2 で360度です。



3 同義文判定

自分の考えと他者の考えを交流させ、同義か異議かを判断させる。

Bさんは、長い文章で書いているね。これって、Aさんの考えと同じじゃないかな。

AさんとBさんの考えを比べてみましょう。

あ、本当だね。同じ考えだ！

Aさんは、短い文章でまとめているね。



授業革新における三つの原則

授業の際には、三原則を忘れずに取り入れていきましょう。



①教科の目標が最優先！
教科の目標を達成する中で、推論やイメージ同定など、1つ程度に視点を絞って取り入れた内容構成にしましょう。

②教科書を読む際には、教師の説明で理解させるのではなく、子どもたち自身に読み取らせ、言語化させましょう。

③「この言葉の意味を理解しているのか？」と疑問をもってください。特に語彙や用語の確認をして理解させましょう。



「読み解く力」の育成につながる日常的な取組

ポイント



主たる教材は「教科書」

教科書を用いて教科書で学ばせる機会を増やしましょう！



地図帳に様々な資料やデータが載っています。地図帳だけでも学習ができそうです！



新しく採択された教科書は、コラム、トピックなど様々な資料が付いていて、とても情報量が豊富です。さらに、中学校で採択される社会科の教科書には、「読み解こう」など、「読み解く力」に関連するコラムが記載されています！教科書を用いて自学自習ができるといいですね！



ポイント



視写・音読・学習語彙・読書・共書き等の取組

それぞれの活動の意図、目的（ゴールイメージ）を明確にもって指導しましょう！

語彙

言葉を知らなければ、文章の意味は分かりません！人間は文章の中の単語の98%を理解していないと意味が分からないと言われています。

- 取組例
- 教科書に記載のある語句について、確認する。
 - いつでも語句を調べられるように環境整備をする。
 - 語句の意味を調べるとともに、話や文章の中で使う場を設ける。(しりとり、新聞等の視写等)

言葉の活用力を付ける

音読

音読は、響きやリズムを感じながら言葉の意味を捉えることにつながります！

取組例

- 音読をする際、「すらすら読める」ことだけでなく、内容を理解しているかという目標も設定する。
- 子どもたちや保護者が「何のために音読するのか」が分かるように伝え、家庭学習や普段の授業の中で継続的に取り組ませる。

読書

読書の質を高め、基礎的な読む力を育みましょう！

取組例

- 分からない部分をゆっくり繰り返し読んでみるなど、考えながら読むことを指導する。
- 科学的な読み物などの説明的な文章もすすめる。
- メタ認知できるように読書した内容を交流する場を設定する。

言い換え 答え合わせ

同じ意味をもつ言葉を言い換えることで、同義文判定に関わる力が身に付きます！

取組例

- 「〇〇とはどういう意味か」と問い返し、言葉を別の言い方で表現させる。
- 同じ意味の文として、2つの文を1つに、1つの文を2つの文に表現させる。
- 答え合わせの正しい仕方について指導する。

共書き (聴写)

文節を意識すること、重要な部分を理解し記録する力が付きます！

取組例

- 教員が子どもの実態に合わせたスピードで文節を意識しながら読み聞かせ、ノートに書かせる。
- 教員の板書と同じスピードで子どももノートに書く。
- めあてや定義などを共書きする。

視写

視写は、語彙習得、表現方法、文章の構成力などが身に付きます！

取組例

- 学年ごとの視写する文字数を設定する等、ゴールを示す。
- 目標を達成できたら、繰り返し取り組ませないようにする。
- 誤りを修正させたり、音読させたりする。

内容の理解に役立つ

記録

見たとおりに書く(描く)ことで、イメージ同定に関わる力が身に付きます！

取組例

- 各教科等の中で、見たままを見たとおりに書く(描く)。
- 見たことを図や表に表現させ、図や表を使って説明させる。
- 家庭や図工等で手順をテキスト等で示し、手順通り作業させる。

板橋の「iカリキュラム (読み解く力)」について

ポイント 各教科の指導計画や日々の授業革新に生かせるように、より具体的な資質・能力を示したカリキュラムを作成しています。

「板橋のiカリキュラム (読み解く力)」は、令和3年度に作成し、各学校へ配付予定です。

「読み解く力」の認識・思考・表現ごとに資質・能力を分類して示しています。

幼稚園・保育園を含んだ10年間の資質・能力を示していく予定です。

	幼稚園・保育園	第1学年	第2学年
INPUT (教科書等の文章や図表等から読み取ったことを基にして)	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に興味や関心をもって関わるができる。 ものの性質を感じとったり、気付いたりすることができる。 身近な自然に触れ、その楽しさや不思議さに 関心をもつことができる。 絵を見て、共通するものが分かり、仲間分けができる。 絵と文を対応させて読むことができる。 絵本などの読み聞かせからどのような内容かが分かる。 関心をもったことに対して自分なりに集中することができる。 人のよい行動を見て、真似ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆の持ち方、字を書く姿勢、手の置き方に気をつけることができる。 文章をじっくり読み、内容を理解することができる。 文節で区切って、丁寧に音読することができる。 平仮名や簡単な片仮名を読むことができる。 濁点、半濁点、拗音、促音、長音を読むことができる。 句点、読点の使い方が分かる。 文章における主語・述語、簡単な目的語の関係に気付くことができる。 文章における指示語が何を指しているか気付くことができる。 友達が使った「こ・そ・あ・と言葉」が何を指しているか気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章における主語・述語、目的語のことができる。 反対の意味や似た言葉の意味が分かる。 質問するときに使う言葉が分かる。 接続詞に気を付けて読むことができる。 例えるときに使う言葉が分かる。 順序を表す言葉が分かる。 動詞や形容詞が分かり種類ごとに「はじめ」「中」「終わり」などの文
THINK (分かったこと、考えたことを)	<ul style="list-style-type: none"> 生活の流れを見通して、準備や片付けができる。 しなければならないことを自覚し、行動することができる。 してよいことと悪いことが分かり、考えながら行動することができる。 楽しく遊ぶために、きまりをつくったり守ったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の用語や学習に関わる語彙について意味が分かる。 テキスト等を読む際に、何について説明しているのかを考慮することができる。 文章の内容と自分の体験とを結び付けることができる。 二つのことを比べて違いや同じ点を考えることができる。 文章で表された友達のと自分の考えとの異同に気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年を貫いて必要とさせる資質・能力を記載しています。 文章における主語・述語、目的語のことができる。 反対の意味や似た言葉の意味が分かる。 質問するときに使う言葉が分かる。 接続詞に気を付けて読むことができる。 例えるときに使う言葉が分かる。 順序を表す言葉が分かる。 動詞や形容詞が分かり種類ごとに「はじめ」「中」「終わり」などの文
OUTPUT (相手に伝える力)	<ul style="list-style-type: none"> 友達と言葉を交わし、心を通わせることができる。 感じたことや考えたことを身体などを使って表すことができる。 友達と積極的に関わることができる。 いろいろな人と親しみをもって関わるができる。 聞かれていることが分かり、丸で困んだり、線で結んだりすることができる。 ブロックやおはじきを操作することができる。 ごっこ遊びを通して、さらに社会に関心をもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> マスの中に収まるように丁寧に文字が書ける。 平仮名や簡単な片仮名を書くことができる。 濁点、半濁点、拗音、促音、長音を書くことができる。 聞いている人に聞こえる声で話すことができる。 身の回りの様子を文章に書いて友達に伝えることができる。 順序よく話したり、書いたりすることができる。 読んだ本のことを友達に紹介するカードを書くことができる。 見たことや体験したことを「主語」「述語」「目的語」を使って短い文で表すことができる。 自分の体験や学習したことを基に表現することができる。 友達と話をつなぐことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科や算数科における資質・能力をベースとして様々な教科で汎用的に必要な資質・能力を示しています。 文章における主語・述語、目的語のことができる。 反対の意味や似た言葉の意味が分かる。 質問するときに使う言葉が分かる。 接続詞に気を付けて読むことができる。 例えるときに使う言葉が分かる。 順序を表す言葉が分かる。 動詞や形容詞が分かり種類ごとに「はじめ」「中」「終わり」などの文

学習指導要領に示されている資質・能力だけでなく、その資質・能力を身に付けさせるための基礎的なものも記載しています。

現在、国立情報学研究所の新井紀子教授を委員長とした「読み解く力」開発推進委員会において、教科書を基に、「読み解く力」に関わる資質・能力とは何かを、令和3年度より具体的に示すことができるように、鋭意研究中です。



各教科、各単元等における、「読み解く力」の育成に関わる基礎的な知識及び技能等を示す表を作成しています。

教科書のページ、単元名、具体的な学習活動場面を記載し、実際に授業を行う際に参考となるように作成しています。

教科書にある語句について、学習する上で理解しておく必要のある語彙に示しています。

第1学年 算数								
頁	単元名	具体例・具体的課題	求められる基礎	6つの分類	頁	項目	単元名	具体的な言葉
4	なかよし おめでとう	仲間を見つけましょう	共通するもの(動物・色・楽器)を認識する	イメージ同定	3		さんすうのまなびかた	生活に生かす
4	なかよし おめでとう	仲間を見つけましょう	共通するものを丸で囲む	イメージ同定	25	語彙	10までのかず	どちらが
4	なかよし おめでとう	仲間を見つけましょう	例について、見たことを言葉で説明する	イメージ同定	26			順に並べる
6	なかよし おめでとう	みんなのぶんはありますか	みんなとは何かが分かり、1対1対応する	照応解決	28		なんばんめ	前から何番目
6	なかよし おめでとう	みんなのぶんはありますか	1対1を線で結ぶ	イメージ同定	28		いくつといくつ	わかりやすくなるべ かえてみましょう
8	なかよし おめでとう	みんなのぶんはありますか	絵と「どちらが」という言葉を対応する	イメージ同定	30		なんばんめ	前から何人目 前から何人
		みんなのぶんはありますか	ブロックを操作し、1対1対応				いくつといくつ	じゅんじょよくならべると たしかめられるわ

「読み解く力」の育成に関わる基礎的な技（スキル）を示しています。

各教科における、「読み解く力」を育成する実践事例を指導案形式で記載します。

開発重点校（板一中学びのエリア）で行われた研究授業の学習指導案をカリキュラムとともに示します。

日々の授業革新に生かせるように、「読み解く力」のINPUT、THINK、OUTPUTを意識した学習や、基礎的読解力の6つの分類を意識した手だて等を示した学習指導案を作成しています。

- 【「板橋のiカリキュラム構成案」】
- 10年間を通した汎用的な資質・能力を示したカリキュラム
 - 各教科、単元ごとに必要とされる基礎的な資質・能力表
 - 実践事例

「読み解く力」の関連
■学習活動に即した具体的な評価規準(評価方法)

●「わたしたちの東京都」P56～57を読み、学習の見通しをもつ。

◆本単元の学習課題を意識させる。

●本時のめあてを確認する。

◆本単元の学習課題を意識させる。

めあて：地震に備えて、「だれが」「どのような」取組を行っているのかを調べよう。

※めあてをよく読んで、本時の学習内容を確実に把握させる。

●地震災害から安全な暮らしを守るために、どのような取組があるのかを資料から見付け発表し合う。

◆教科書やパンフレット(東京都・板橋区)、インターネットのページを自由に読ませ、地震に対する取組をとらえさせる。

※「板橋区が」「水を配る」
「東京都が」「協力を呼びかける」
「自分が」「食べ物を用意しておく」
「家族が」「避難する場所を決めておく」
「地域が」「避難訓練をする」

【係り受け解析】
※「誰が」「何を」行っているのかを明確にさせる

●「公助・共助・自助」の言葉の意味をノートにまとめる。

※「公助とは…」「共助とは…」「自助とは…」

【具体例同定】
※それぞれの言葉の定義をおさえる。
※「公助・共助・自助」の言葉の意味を踏まえて、東京都の取組がどれにあたるのかを考えさせる。

●調べた取組を見て、「公助・共助・自助」のどれにあたるのかを考える。

※避難所の開設は、地域の人たちでやるので、共助です。水を配るのは板橋区がやっているの、公助です。自分で食料を備蓄するのは自助です。

●調べて気付いたことを発表し合い、学習のまとめをする

■地震災害から、人々の安全な暮らしを守るために、東京都・板橋区・地域・自分が様々な取組を進めていることを理解している。(発言・ノート)

●学習を振り返る。

●本時の学習を通して学んだことを記録させ次時の学習に繋げる。

学校全体で「読み解く力」を育成する場面をつくる

ポイント



学校全体の目標として、それぞれの実情に即して取り入れましょう！

目標① テキストを理解・評価しながら読む力を高める

- 読む目的を明確にすること
- テキストを肯定的に捉えて理解すること（情報の取り出し）
- テキストの内容や筆者の意図などを解釈すること
- テキストを自分の経験や知識と関連付けて様々な視点から理解、評価すること
（視点の例：内容、形式や表現、信頼性や客観性、引用や数値の正確性、論理的な思考の確かさ）



目標② テキストに基づいて自分の考えを書く力を高める

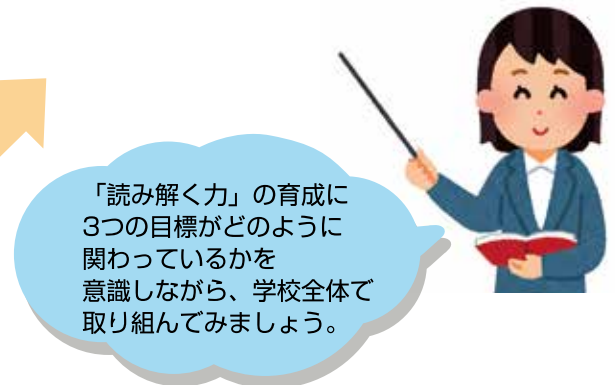
- テキストを利用して自分の考えを書くこと
（例：内容を要約、紹介する、再構成する、自分の知識や経験と関連付けたり意味付けたりする、自分の意見を書く）
- 授業のまとめて自分の考えを80字から200字程度で簡潔に書くこと
- テキストを読んで理解することによって得られた知識等について、実生活や行動と関連付けて書くこと
- 自分の書いたものを推敲することを通じて読む力を育てること



参考：文部科学省「読解力プロジェクト」より

目標③ 様々な文章や資料を読んだり、自分の意見を述べたり書いたりする

- 読書活動を推進すること
- 新聞や科学雑誌など実用文を含め、様々なジャンルの読み物に親しませること
- 授業の中で、自分の意見を述べたり、書いたりすること
（目的や条件を明確にして自分の考えを述べる、論理的・説明的な文書・文章に対する自分の意見を書く、人の話を聴いてそれに対する自分の考えや問いを述べたり書いたりする等）



ポイント



「読み解く力」を育成するために、保護者のみなさんにも働きかけましょう！

【保護者に啓発したいこと】

- ▶ 読み聞かせ、読書に関する働きかけ
（本や新聞を読むようすすめる、読んだ本の感想を話し合う）
- ▶ 文化・芸術・自然体験活動に関する働きかけ
（図書館、博物館・教育科学館、美術館・劇場など）



- ▶ 子どもとのコミュニケーション
- ▶ 家庭の文化環境
（本や図鑑、地球儀、百人一首など、家庭で文化に触れられる環境づくり）

板橋区立学校 での取組



iカリキュラム（読み解く力）を作成するため、開発重点校として「板一中学びのエリア」である板橋第一中学校、板橋第二小学校、板橋第六小学校、板橋第七小学校の4校を指定し、「読み解く力」の育成をめざし、研究を重ねています。



第9学年 国語

「月の起源をさぐる」

- ・ 図を見て、どの図がどの説のことを指しているかを判断することができる。[イメージ同定]
- ・ なぜ古典的仮説が否定されるのかを内容や身近な事例から推論する。[推論]



第9学年 社会

「アジアと太平洋に広がる戦線」

- ・ 世界地図からアメリカがどのように進攻したか矢印で示しながら確認する。[イメージ同定]
- ・ 各グループが発表した内容が同義か否かを正しく認識する。[同義文判定]



第6学年 家庭科

「暑い季節を快適に」

- ・ 手順から作業工程をイメージし、要点をまとめる。[イメージ同定]
- ・ 写真から動作をイメージし、資料から洗い方の説明を読み取る。
- ・ 手順や写真を読み取り、具体物で実践をする。また自分で説明をする。



第4学年 社会

「ごみのしまつと再利用」

- ・ 「ゆくえ」と「しまつ」という言葉の定義を「くらしをささえる水」の内容と対応させて確認する。[具体例同定]
- ・ たくさんの量や種類のごみを、清掃局の人が運んでいる事実を基に、学習問題を書く。[推論]



第4学年 理科

「物の体積と温度」

- ・ 実験の結果から、金属の温度と体積の関係を論理的に判断し、言葉でまとめる。[推論]



第3学年 理科

「じしゃくにつけよう」

- ・ 違う極同士、同じ極同士という意味を具体的に理解できる。[具体例同定]
- ・ 既習の極の性質に、新たな情報(知識)を加え、磁石が浮く理由を考える。[推論]



第2学年 国語

「せつめいのしかたに 気をつけて読もう」

- ・ 間違った手順のビデオと正しい手順の文章を比べることで、「何を」「どうするか」を正しく読み取る。
- ・ 書いてある手順通りにカードを作る。[イメージ同定]



第1学年 算数

「ずをつかってかんがえよう」

- ・ 2つの問題文を読み比べ、同義か否かを考える。[同義文判定]
- ・ 問題文を図に表し、自分の考えを式や言葉を用いて表現する。[イメージ同定]